

グループワーク

グループワークの流れ

1. 地域の現状と課題について情報交換 (30分)
2. 在宅医療・介護で「地域の目指す姿」とそれを実現するための「取組み」ツリーを作る (40分)
3. 「地域の目指す姿」を実現するための役割について意見交換 (20分)
4. 発表 (20分)

グループワーク 1

在宅医療・介護に関する地域の現状と課題

1. 在宅医療・介護における地域の現状と課題について
 - ・ご自身が日頃の業務の中で感じていること
 - ・関係職種団体・組織・従事者が感じていること
 - ・住民・患者・利用者が感じていることを整理してみましょう。
2. グループで情報交換しましょう。
 - ・気づきや感想
 - ・地域の課題
 - ・その課題によって住民にどんな影響があるか など

職種(団体・組織)	地域の現状と課題
自分	
住民・患者・利用者	
医師	
歯科医師	
薬剤師	
訪問看護	
病院	
ケアマネ	
通所介護	
訪問介護	
栄養士	
訪問リハビリ	
地域包括	
行政	

グループワーク2

在宅医療・介護で「地域の目指す姿」とそれを実現するための「取組み」ツリーをつくる

1. グループワーク1をもとに「地域が目指す姿」を設定する。

※ポイント「自分が受けたい医療・介護」「住民の姿」

※協議体で話し合われていることにとらわれずに

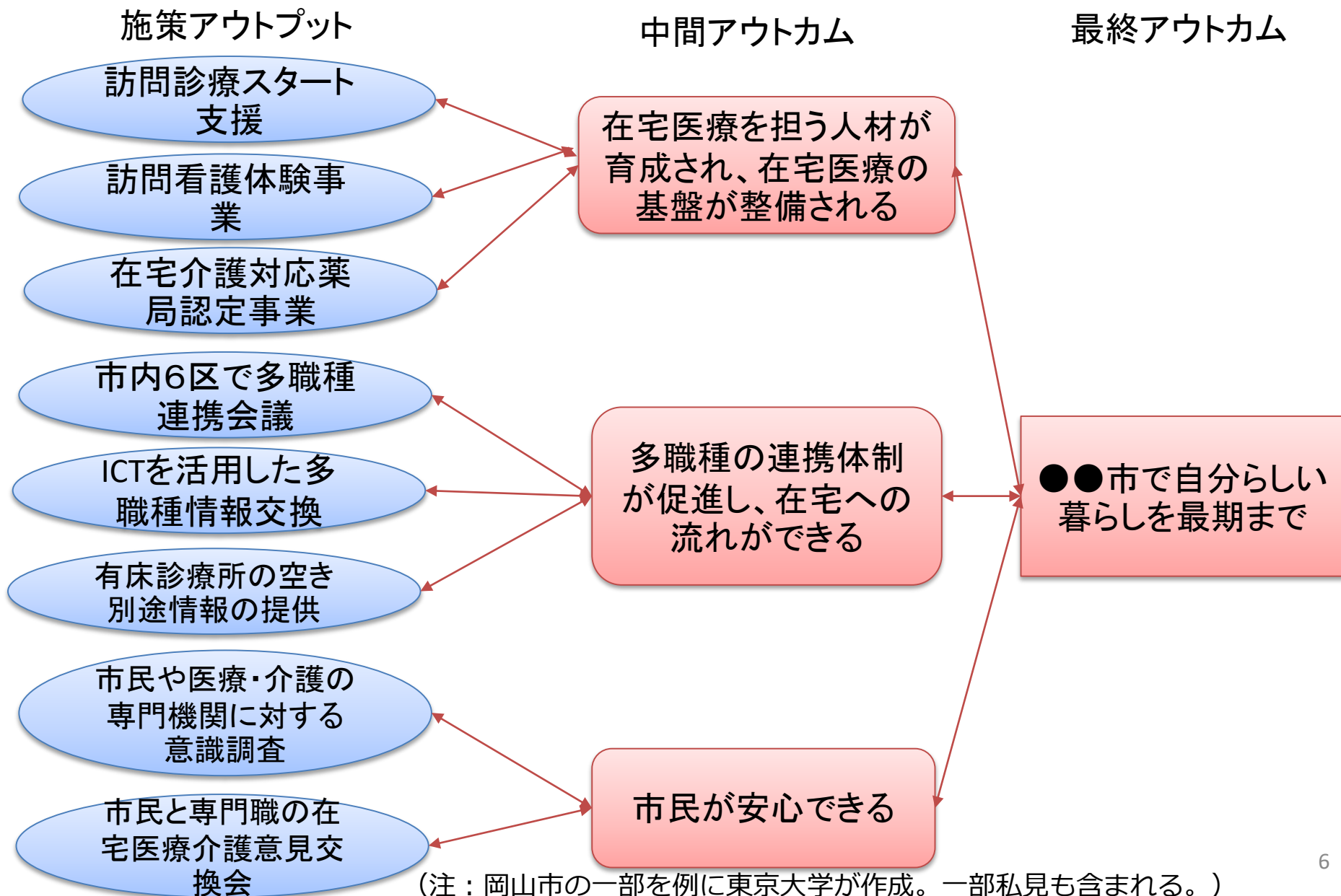
2. 「地域の目指す姿」を達成するために「必要な状態」を3つあげる

3. 「必要な状態」を実現するための「取組み」をあげる

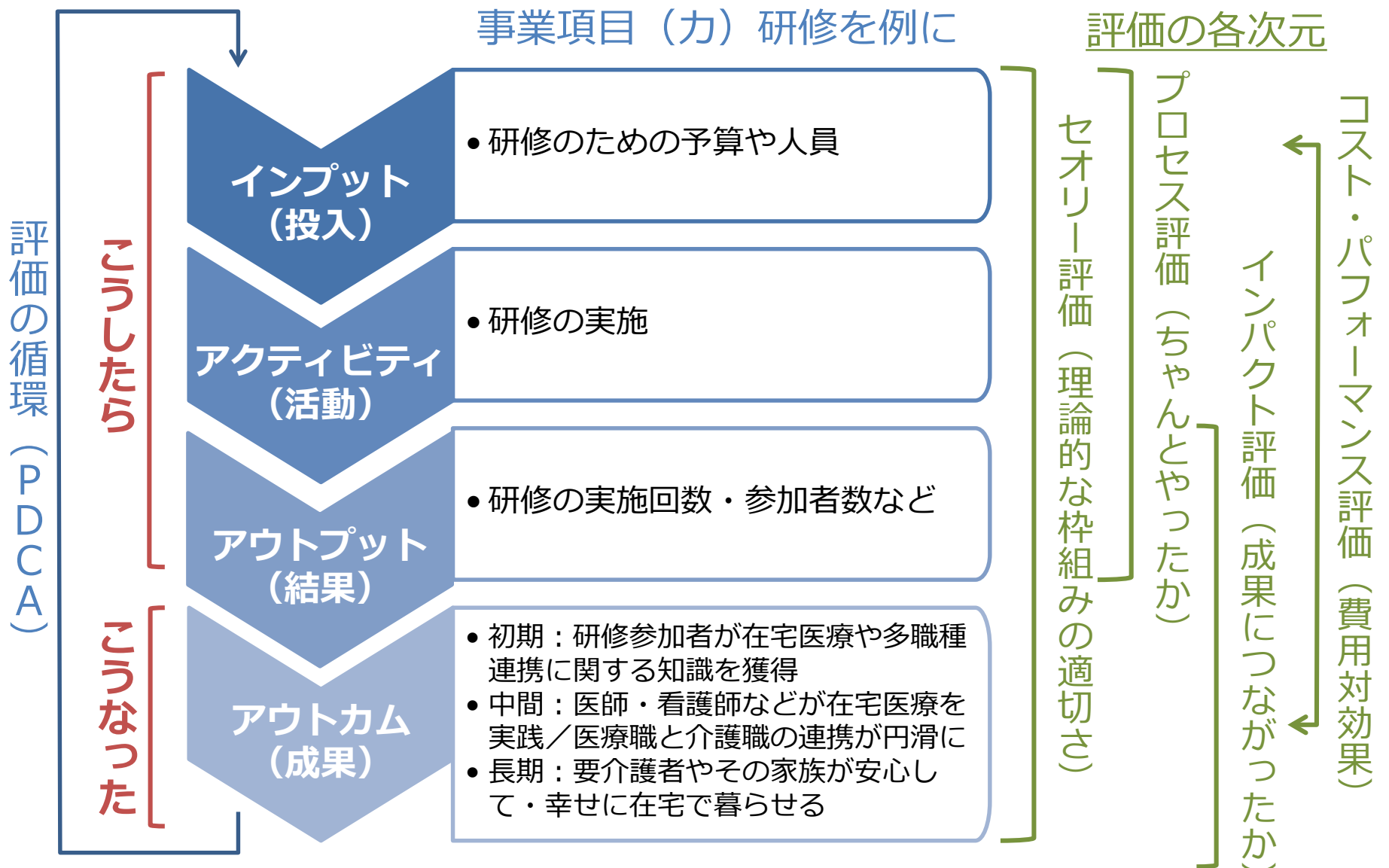
※優先順位の高いものから

4. 「地域の目指す姿」「必要な状態」「取組み」が正しく配置されているか、「そのために」「だからこうなる」が繋がってるか吟味

アウトカムを実現するための取組みを考える（例）

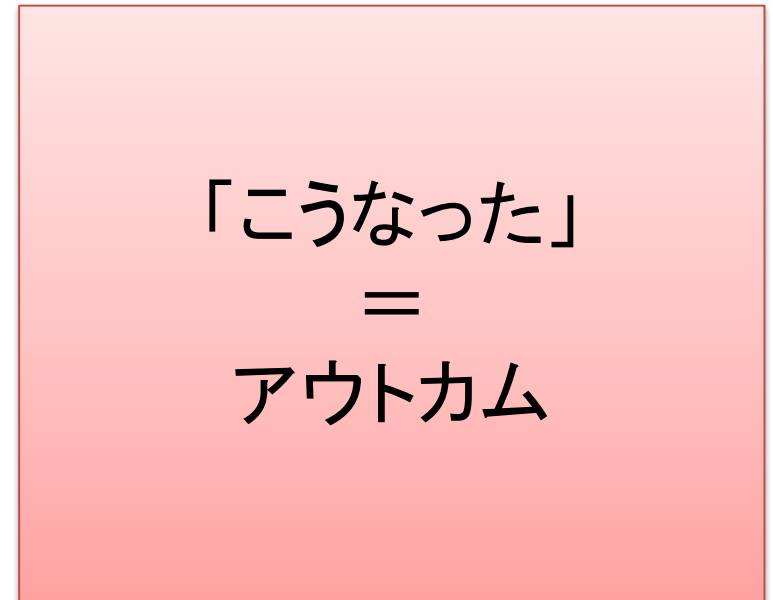


ロジックモデル (事業評価の基本枠組み) ≡ 考え方の筋道



図：W.K.Kellogg Foundation. Logic Model Development Guide, 2003. Rossi, et al. プログラム評価の理論と方法, 2005. 国際医療福祉大学教授埴岡健一氏講演資料をもとに演者作成

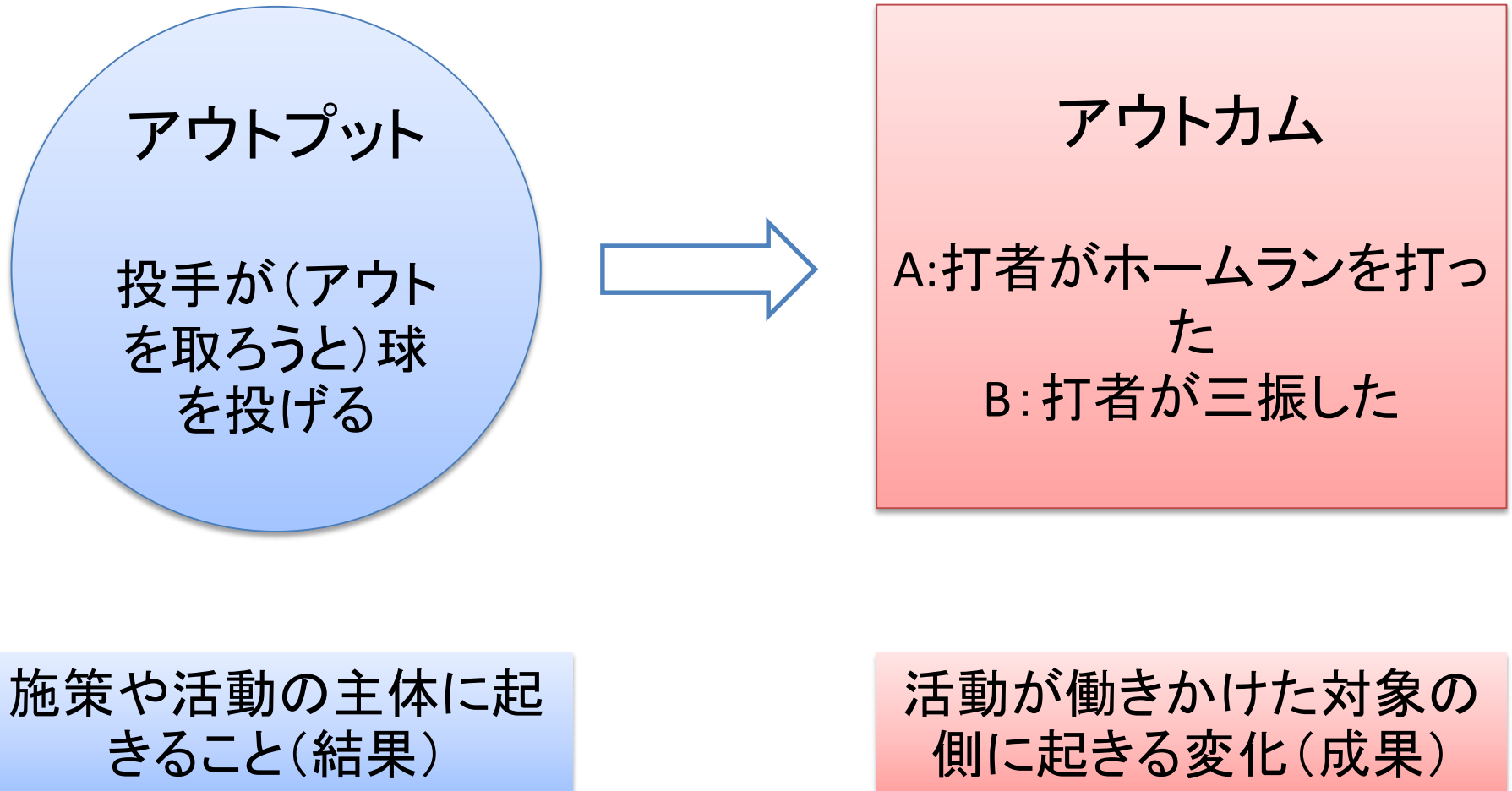
「こうしたら」 = アウトプット
「こうなった」 = アウトカム



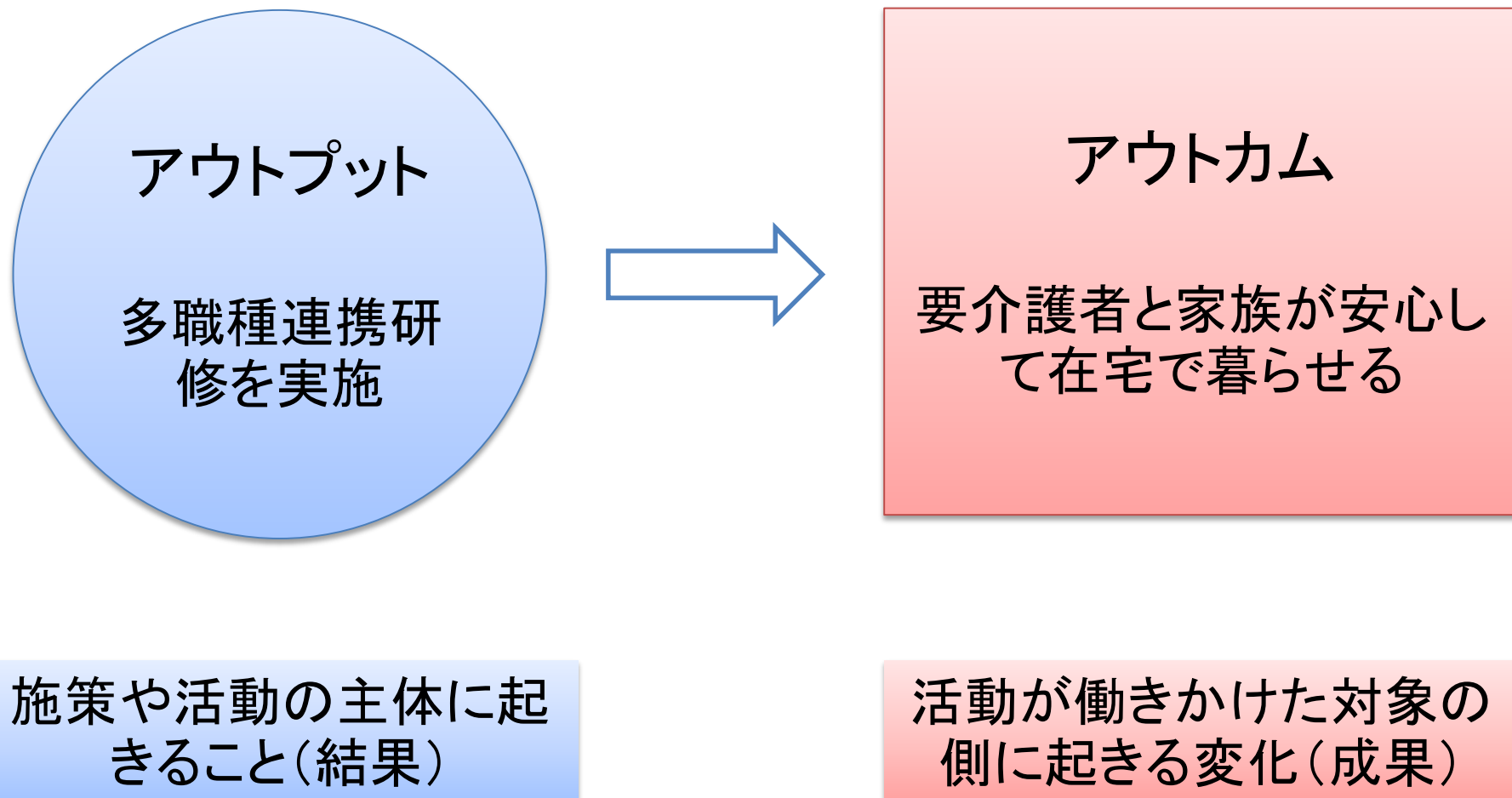
施策や活動の主体に起
きること(結果)

活動が働きかけた対象の
側に起きる変化(成果)

アウトカムとアウトプット 例①



アウトカムとアウトプット 例②



「こうしたら」「こうなった」で実際の事業を考える

ヒト・モノ・カネを投入して活動する

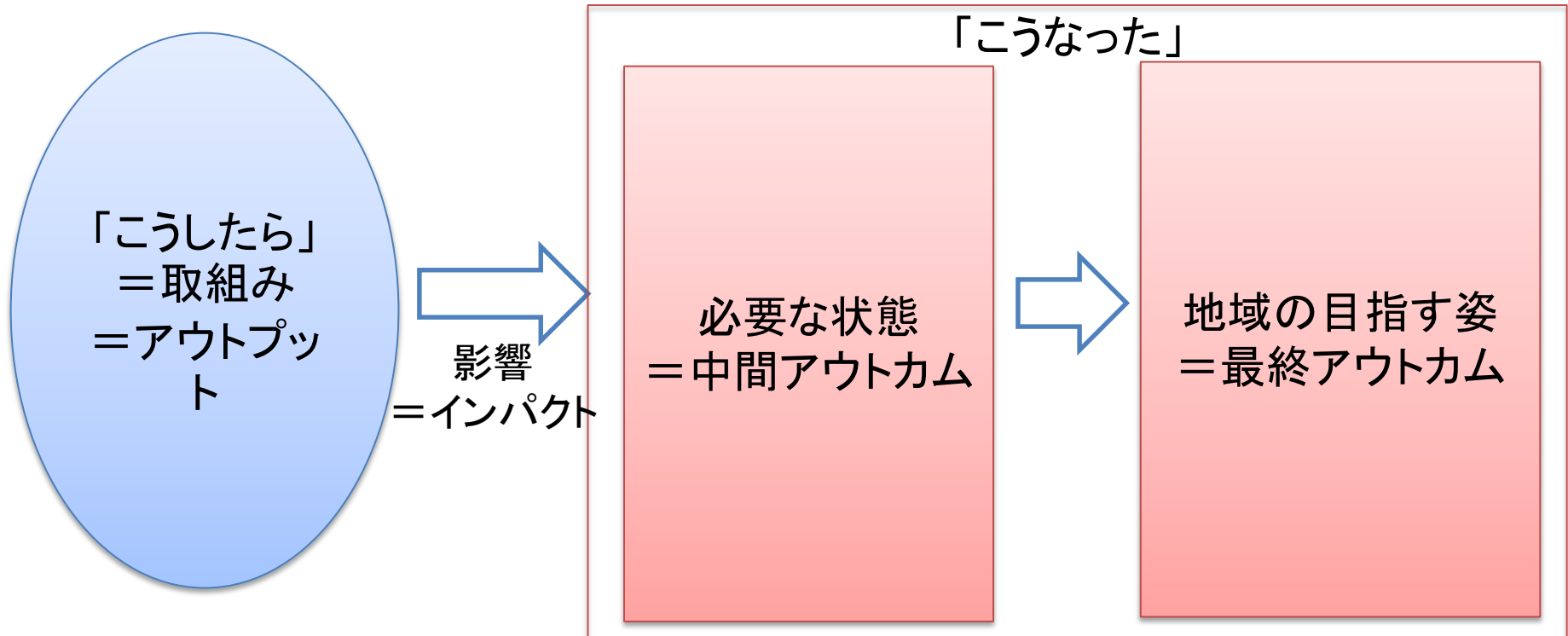
多職種連携研修を実施

サービスが良くなる

医療・介護従事者の連携が円滑になる

住民の状態が良くなる

要介護者と家族が安心して在宅で暮らせる

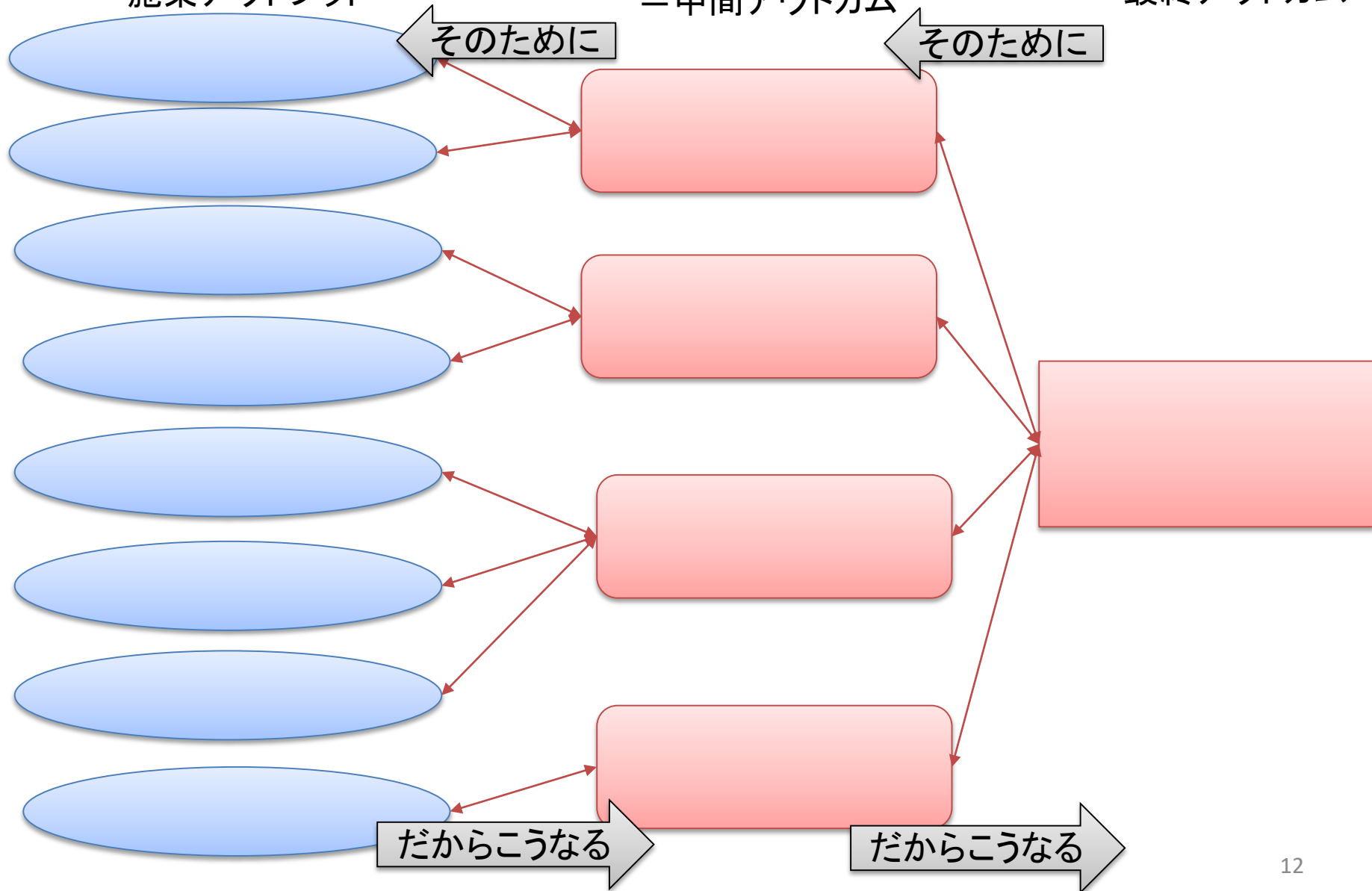


実際に事業を考える時のツリー

取組み
= 施策アウトプット

必要な状態
= 中間アウトカム

地域の目指す姿
= 最終アウトカム



グループワーク 3

「地域の目指す姿」を実現するための役割 について意見交換

- 自分がどういう役割を担えるか、担いたいか
- 相手の協力が得られればさらにどんなことができるか
- 明日からできること
- 1日の感想、気づいたこと などご自由に。